（調査様式１）

１．　自己評価及び外部評価結果

作成日　2013/7/5

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670500166号
法　人　名	医療法人　杏林会
事 業 所 名	あんずの家
所　在　地	鹿児島県いちき串木野市桜町３９－１ （電 話）０９９６－３２－８１１１
自己評価作成日	平成25年6月10日

※事業所の基本情報は，WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ＮＰＯさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成25年7月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

あんずの家では、「あなたがあなたらしく生きていただくために、今までのあなたを大切に楽しく過ごす」をキャッチフレーズに、「地域社会の一員として生活できるようにバックアップすることを目的とします」を理念としている。住み慣れた自宅を離れるという不本意な形で入居される方がほとんどで、その思いをしっかり受け止めそれぞれの家、家族、知人とのつながりを入居したことで途切れることがないように、との思いで支援している。
あんずの家は、市内のほぼ中心部の住宅地に立地しており、周辺の人の動きや近くの公園で遊んでいる子供たちの声が聞こえてきたりと、日常のいろいろな音、におい、動きを直に感じることができ、良い刺激を受けている。住宅地ということもあり、景観も落ち着いた雰囲気で、周りにとけこんでいる。春になれば、入り口に植えてあるあんずがきれいな花を咲かせ、また季節ごとに花を植え替え、季節の移り変わりを肌で感じることができるようにしている。グループホームは、昔では普通であった多世代家族のようなもので、職員は２０代～６０代まで、お年寄りも７０代～９０代までおられ、職員利用者の垣根を超え、それぞれが、それぞれの関係を構築しており、楽しくもあり、何か懐かしい空気が流れているようでもある。その雰囲気や空気が、安心につながるように、努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点，工夫点（評価機関記入）】

いちき串木野市の中心街に近く、国道から少し入った閑静な住宅街に開設されている当ホームは周囲の住宅と違和感なく調和している。周辺には商業施設・公園・病院などの社会資源も多く利便性に恵まれ、日常の散歩や買い物などで社会と孤立することのない日常生活が送れる環境にある。
「あなたが、あなたらしく生きていただく為に今までのあなたを大切に楽しく過ごす」と理念にも謳ってあるように、利用者主体のケアに取り組み、可能な限り個々の希望に沿った支援に努めている。また、利用者が生活してきた地域との関係を大切にして、かかりつけ医・家族や友人知人との時間・自宅訪問・お墓参り・馴染みの美容室行きなど入居してもこれまでの関係が途切れることのないように支援に努めている。
利用者の穏やかな笑顔と生活ぶりからも自由で拘束のないその人らしい生活が送れていることが伺わる。
開設して１０年目となり、地域でも中核的な存在のグル―プホームとして管理者・職員は今後も更なる質の向上に向けて邁進している。

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり，管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	基本理念を職員間で共有し、日々のケアに活かすよう努めている。	理念は開設当初の職員の意見を集約して作成している。理念は玄関と職員が目につきやすい台所・浴室に掲示してパンフレットにも明記している。日常の業務の中や毎月のスタッフ会議時に理念を確認する機会を設けて理念の共有と実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう，事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館を通じ、行事への参加を呼びかけ、婦人会や子供会などの参加を頂いている。又、火災や自然災害の発生に対し、地域住民の協力を頂けるよう近隣住民参加の防災訓練を計画している。	自治会に加入して回覧板を回したり、資源ごみ回収に参加したりして地域との交流に努めている。また、地域向けにホーム便りを作成して近隣に配布している。利用者も地域行事見学に出かけたり、夏祭り・敬老会などのホーム行事に毎回多数の地域住民が訪れ、子供会の子どもたちが余興を披露してくれるなど交流の機会となっている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	あんず便りを発行し日々の生活の様子や、施設の取り組み。また、認知症に関することなど発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況やサービス等に関し、都度会議で報告し、意見やアドバイスをサービスの向上に繋げている。又、上記２などに関して会議の場を有効に生かし連携が取れるよう図っている。	運営推進会議は公民館長・公民館主事・民生委員・家族・地域包括支援センター職員等の参加を得て年６回開催している。ホームの行事や防災対策などが話し合われて地域と密着した運営に活かされている。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り，事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら，協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて相談報告を行っている。 その都度丁寧なアドバイス等をいただいている。	市担当者とは日頃より連携を図り、協力関係を築くように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており，玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、出入口の施錠はしていない。目配りや気配りを心掛け、束縛感の無い生活を送っていただけるように気を付けている。	日常の業務やスタッフ会議、定期的な勉強会時に禁止の対象となる具体的な行為を確認し、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。日中は居室や玄関の施錠はせず、職員間の連携で安全で自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止に努めており、現在まで虐待は認められない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、１名の制度利用者がいるが入居前に後見人制度を利用されている。 少数の職員は研修等への参加があり一応の理解はしている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要事項説明書に沿って時間をかけ説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時等に状態報告を行うとともに、家族の意見や要望なども伺い、スタッフ会議等で検討している。	日常の面会時や電話連絡時に意見・要望を聞き出すように努めている。出された意見や要望については職員全員で話し合って可能な限り運営やケアに反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	気軽に相談できる雰囲気づくりに努めている。	毎朝夕の申し送り、毎月のスタッフ会議で職員の意見・提案を話し合う機会としている。スタッフ会議は基本全員参加でユニットごとに行い、必要に応じて合同で行うこともある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者より代表者へ個々の勤務状態等報告している。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な研修に参加できるようにしているが、人員の都合等もあり、全職員の研修参加ができていない。 職員の疑問などには、その都度指導回答ができるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員間の交流は少ない。 ネットワークづくり含め他施設の管理者と検討中である。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人や家族と面談を行い、生活歴や要望、それぞれ思いなどを確認し安心した生活が送れるように努めている。 しかし、本人と家族の思いに食い違いなどがあり苦慮する場面も多い。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の抱える不安にしっかりと耳を傾け、信頼していただけるような関係づくりを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談を通じて本人、家族の思いを確認し、満足していただけるサービスが提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしい暮らしが続けられるように、一人ひとりお互い支えあいながら、信頼関係を築けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	様々な情報を共有して、本人にとって大切な存在として、ご協力を頂いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や知人の面会等が気軽にできるように、また家族との外出や外泊等の希望に添えるように支援している。	入居前のアセスメントや日常の関わり・会話等で本人の思いや希望を把握し、自宅訪問や家族・友人・知人と過ごす時間、墓参り、馴染みの美容室利用など時には家族の協力をもらいながらこれまでの関係が途切れないように支援している。また、友人・知人が訪ねやすいような雰囲気作りにも配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一同に会する機会は、食事やお茶の時以外少ないが２～３人の集まりがあり、それぞれに関係を保っているが、認知力に差があり、負担になる利用者には職員が対応して関係性が崩れないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、相談に応じたり可能な限りフォローできる体制を作っている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の意向を伺い、また、本人の日々の生活の中で表情や言動から心身状況を把握するよう努めている。	自分の意志や思いをしっかりと言える利用者からは常に会話で意思疎通を図っている。思いを伝えることが困難な利用者からは言動、表情、家族の情報、職員の気づきなどから本人本位に検討している。申し送りノートや日常生活記録簿等で職員間の情報の共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の暮らしについては、本人からはもちろんご家族や担当ケアマネ、身近な介護者から情報をいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で、出来る事と出来ない事を見極めその人らしく暮らしていけるよう支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活記録に気付きなど記入し、職員間で共有しカンファレンスを行い、本人やご家族の意向などを反映した介護計画の作成に努めている。	入居時に本人、家族の暮らし方の希望や思いを聞いて、職員、主治医の意見を取り入れながら個々に応じた介護計画を作成している。家族の協力をもらいながら外出をプランに取り入れている利用者もおり、家族も共に本人を支えられるように個別性のある介護計画となっている。見直しは変化がなければ定期的に行い、退院後や日常の生活で変化が見られたら都度見直しを行って現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に日々の様子を記録し、３か月に一度モニタリングを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に応じたサービスが提供できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	豊かな暮らしを楽しむため地域の公園等を利用している。また、季節ごとに開催される地域行事等への参加に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	可能な限り、希望しているかかりつけ医との関係を継続しており、医師との連携がとれている。	本人・家族の希望するかかりつけ医や入居前からの主治医受診となっている。受診はホームより職員が同行しており、状況に応じて家族に同行してもらうこともある。また、協力医療機関とは２４時間連携が図られている。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がいない為、かかりつけ病院の看護師に報告相談し、適切な医療や看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	かかりつけ医療機関、協力医療機関との関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に口頭で方針の説明行い、入居後も適宜家族と相談している。また、かかりつけ医や同グループ内の施設も含め、重度化しても安心できるように支援している。	重度化や終末期に向けたホームの方針は入居時に口頭にて説明している。入居後は利用者の身体状況に応じて主治医の判断のもと家族と話し合い、職員も方向性を共有してホームで出来る最大限の支援に取り組んでいる。今年度法人の方針により重度化・終末期ケアの在り方が変更になることもあり、文書化した指針の作成にあたる予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアル作成し、冷静に対処できるように周知している。また心肺蘇生法（ＡＥＤ使用方法）の訓練も行っている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を定期的に行っている。 また、Ｉ－２の通り近隣の方への協力も呼び掛けている。	年２回夜間想定で避難訓練を行っている。法人の医療機関とは協力関係が築かれており、運営推進会議でホームの防災対策の話し合いもなされ、次回の訓練には地域住民の参加も得られるようになっている。スプリンクラー、自動通報システムは設置済みで、備蓄も確保されている。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや人格を損ねない言葉かけや対応を心掛けている。	男性職員もおり、特に羞恥心に配慮したケアに心がけている。また、馴れ合いのことば使いなど、日常の業務の中で気づいたらすぐに尊厳に対するケアのあり方を話し合い、職員の資質向上に向けて取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	押し付けや無理強いをせず、ご本人が自己決定できるようなかかわりに心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムに合わせ自己決定できるような雰囲気づくりをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	行きつけの美容室へ出かけたり、ビューティヘルパーを利用したりして、好きなヘアスタイルをしてもらっている。服も出来るだけ一緒に選んでもらうように心がけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の身体状況に合った食事形態を提供し、できるだけお手伝いをもらいながら食事の準備や、片付けをしている。	個々の力量に応じて準備や片づけなど出来る利用者には手伝ってもらっている。時には気分を変えて、弁当持参の花見やホテルでの外食、ソーメン流しなどに出かけ「食」を楽しめるように支援し、ホームの夏祭りではかき氷・焼き鳥・たこ焼きなどの趣向も凝らしている。家庭菜園もあり、菜園作りや収穫で季節感を味わえるように支援している。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれに合った食事形態で提供し、偏食等にも代替え品にて対応している。また、疾患に応じた食事の提供に努めている。水分補給に対しても個々に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、磨き残しや義歯装着の確認を含め口腔内の状態の確認をしている。また、就寝前には義歯洗浄剤も利用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	状態に合わせた下着や排泄用具を使用し、なるべくトイレで排泄ができるように、排泄パターンを知りトイレへの誘導を行っている。	入居当時や入退院後に排せつパターンを把握するため一時的に排せつチェック表を活用してトイレ誘導を行っている。日中はトイレでの排せつを支援しており、布パンツで自立している利用者も多く、維持できるように支援している。また、入居後に改善された利用者も多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を十分に行い、排泄時等腹部マッサージを行い、散歩や運動等も積極的の行えるように心がけている。また、食事メニューへの配慮を行っている。緩下剤の使用については、担当医と連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的には、週３回で午後からの入浴になっているが、希望があればその都度入浴ができるようにしている。	基本は週３日であるが、個々の希望や身体状況に応じて柔軟に入浴支援を行っている。また、ときには、家族が温泉に連れていく利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	１人ひとりの生活習慣や体調に合わせ、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬剤の説明書を個々にファイルし内容把握に努めている。また、処方変更等についてはその都度、申し送りにて周知し状態の観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや皿拭き、調理の手伝い等して下さっている。天気の良い日は、ドライブや買い物、外食等行い気分転換を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物、ドライブ、外食。その他季節の行事等、家族の協力も貰いながら参加できるように支援している。 しかし、職員の人員により困難になる事も多い。	外出好きな利用者が多く、日常的には散歩・買い物・ドライブ・個々の希望に応じた個別の外食などに出かけている。また、家族の協力を得て外出する利用者もいる。ホームの年間行事計画として季節の花見・ソーメン流し・地域行事見学・一日遠足・初詣など普段行けないような場所でも職員体制を工夫して外出の機会を設け、利用者に楽しんでもらえるように支援している。	

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所の金庫に預けている方がほとんどである。買い物や外出時は、財布を持ってもらい自分で支払をする機会を持つように心がけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	手紙を書かれる方は少ないが、電話はいつでも掛けられる環境を作っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは、天井も高く明るく壁には、季節に合った装飾品を飾り季節感を出している。夏場は、西日が当たるためすだれ等で工夫している。	共用空間は広く、随所にソファや椅子が置かれ、利用者が思い思いに過ごせるように工夫されている。浴室やトイレ、台所なども利用者が出入りしやすい造りで身体機能を活かし、自立した生活が送れるように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごされる方が多く、利用者同士楽しく会話したり、たまには言い合いしたりと良い関係が出来ている。また、その時々で部屋で過ごしたり一人の時間も楽しんでおられる。		

自己評価	外部評価	項　　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス、家族写真、テレビ等ご自宅でも使われていたものや馴染みのものを持ち込んでおられ、個性的な部屋になっている。	居室は畳敷きとなっており、落ち着いた雰囲気である。使い慣れたタンス・テレビ・椅子・季節に応じた敷物・飾り物・家族の写真などでそれぞれに居心地良く過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見渡しがよく広い造りになっており、床や居室の出入り口にも段差がなくバリアフリーになっている。日中は施錠せず開放的。庭の花をいつでも摘んでくることができる。		

Ⅴ　アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：23,24,25）	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：18,38）	○	1 毎日ある
			2 数日に１回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：38）	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 （参考項目：36,37）	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 （参考項目：49）		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：30,31）	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 （参考項目：28）	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 （参考項目：9,10,19）	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：9,10,19）	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に１回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して，地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり，事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，活き活きと働けている。 （参考項目：11,12）	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない